



勝浦市太極拳サークル

美心会だより

太極拳練功会のふるさと台湾を訪ねて（連載6）

元々はわずか9世帯のみの小さな集落。当時は交通が不便で、買い物はいつも9世帯分まとめて調達していたため九份（9つ分）と名付けられたとか。その後、ゴールドラッシュが巻き起こり栄えたが、鉱脈の枯渇と共に町は急激に衰退。「千と千尋の神隠し」の舞台となり一躍観光地として脚光を浴びるようになった。



「千と千尋の神隠し」のモデルとなった建物

九份の夜景を眺めながら、レストランで夕食。

レストランの看板娘は昔のお嬢さん（90歳）。雨が多いと言われる九份で、初めて小雨に降られたが、その雨も、台北に戻れば上がり、夜市を見学。



何でも揃うという夜市の入り口

台湾の人は「甘いものが好き」と言うが、お茶にまで砂糖が（マズイ!）。お茶の美味しいのは、「阿里山烏龍茶」セブンイレブンで購入（超おすすめ）。

一方、午後から松山空港に向かった定男先生達3名は、まだ台北にいた。「午後8時出発予定が午後11時にさらに変更になり、飛ぶかどうかははっきりしない。」と伝えてくれたのは、ボランティアガイドをしている陳さん。一行はホテルに戻ると、明日の帰国の準備をしながらも、日本の様子が気がかり。

最終日（16日）の朝食で、一江先生から「3名は、何とか無事に帰り着いたが、家に着いたのは午前3時頃だった」と聞いた。（本当にお疲れ様でした）



何でも願いが叶うと言われる龍山寺にて

午後4時の便で帰国する準備をし、何事も願いが叶うと言う龍山寺と朝市を見学。

昼食を口に運びながらの話題は、羽田や勝浦の状況。江澤さんの情報では、部原で積雪25cmとか。俄然、帰路を心配する声が多くなった。不安を和らげてくれたのは、日本の天候が回復し、晴れ間が出ていたこと。

台北も午後から太陽が初めて顔を出し、空港でチェックインしたが、搭乗予定の飛行機は1時間遅れの出発とアナウンス、もう「俎上の鯉」だ。

羽田到着も予定より1時間遅れ、予定していた東京発22時の「わかしお」には間に合わない。羽田から、角谷さんは自家用車、齋藤・村上さんは東京泊。

他のメンバーは急いで時刻表を調べ、大原止まりの最終に間に合うと電車で飛び乗った。奥さんを大原迄迎えに行かれた旦那さん方お疲れ様でした。（完）